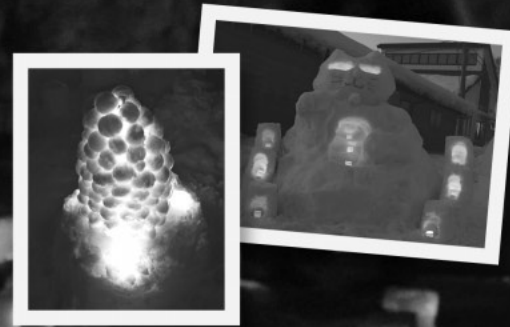




キューブの皆さんの  
歌声が会場を盛り上げました



独創的な作品やいーにゃんも登場



スノーキャンドルの準備中  
みんなでつくるからこそ交流も生まれます

温かなオレンジ色の光が雪原を照らす

「雪」だって  
「地域資源」  
なんです

# みんなで作って灯そう スノーキャンドル

中国横断自動車道「尾道松江線」の開通を見据えて活動していた、「国道54号活性化アクションプラン推進協議会」の雪を活用した取り組み「いーにゃん雪あり月」。そのイベントの一つとして「スノーキャンドル」は始まりました。



(左から)話が弾む奥野さんと服部さん

企画・運営するのは、町内有志で構成する実行委員会。「雪の降る時期をじつと耐えて春まで過ぎずんじゃなくて、『どうせ降るんだから楽しんじゃおう!』というところから始まりました」と話すのは、道の駅頓原の駅長で、協議会と実行委員会に関わる奥野恵子さん。



国道54号活性化アクションプラン  
推進協議会 会長  
島根大学教育学部 教授 作野広和さん

尾道松江線が完成して国道54号線の利用者が減少し、地域経済にマイナスの影響を与えたことは事実です。一方で、町内を目的地とする来訪者は増加傾向にあります。道路の改良とカーナビゲーションの普及により、自家用車ならばどこでも行ける時代が到来しています。幸い、飯南町には多くの地域資源が存在しています。とりわけ、冬期に降る雪は、降雪が少ない地域の人から見ると、この上ない宝物に見えます。都会では、有料で「雪かき体験」をするツアーも企画されています。雪を天が与えてくれた貴重な贈り物として捉え、活用していくべきだと考えています。

自然豊かで四季のあるまち飯南町。春は花を、夏は緑を、秋は紅葉、そして冬は雪を。当たり前のことかもしれないけれど、実はとっても贅沢なこと。都会の人が体験しようと思つたら、時間とお金をかけてその場所に行かないといけないかもしれない。そう考えたら、すごく



イベントのシンボルは「ハート」の雪像

恵まれたところに住んでいるんだなと思いませんか? 「田舎だけなんじゃないわあ」と耳にすることもありますが、そんなことはありません。何でもありません。あとは、それを見つけて活用できるかどうか。「尾道松江線の開通は、確かに交通量や来町者数減少のきつかけになりました。でも、このことで人と人とのつながり、地域や企業、公民館、行政とのつながりは強くなったと思います。ただ、町民の皆さんに関心を持ってもらえる取り組みができるかどうかは今後の課題ですね。みんなで頑張ります」と語る奥野さんと服部さんの周りには、冬の空気を熱くする、仲間たちとのまちへの想いが溢れています。

「子どもの頃は、カチカチに凍った田んぼの雪の上を歩いて登校したり、ランドセルをソリにして遊ぶ子もいました。あの頃と比べれば、暖かくなったし、雪も少なくなりました。外で遊ぶ子も少なくなりましたのかもしれないですね。でも、キャンドル作りに汗を流した子ども達が大人になったときに、雪で遊んだことが、楽しかった記憶として残ればいいなと思っています」

地域おこし協力隊員として、東京から移住した服部恵子さんは、「都会では雪そのものが珍しいですね。広島市で開催された『島根ふるさとフェア』に、雪で作ったすべり台があったのですが、解けてベチャベチャ。それでも、子ども達は大はしゃぎでした。それに比べてこの雪はフワフワサラサラ。あこがれの遊び道具ですよ」と話しました。